

第 79 回 GAORA 番組審議会記録(2022 年 12 月開催)

第 79 回番組審議会が 12 月 6 日(火)に開催され、以下の番組について審議を行い、委員の皆様から次のようなご意見をいただきました。

<審議番組> コンにちは！私たちファイターズガールです。～きつねダンス大流行の裏側で～
初回放送:2022 年 11 月 13 日(日)12:00～13:00

<番組概要>

「きつねダンス」でプロ野球界に旋風を巻き起こしたファイターズガール。これまでとは一変し、目まぐるしいシーズンを終えた彼女たちの素顔に迫る特別番組。

番組では、きつねダンス振付本の表紙を飾った 3 人を中心に取材。「1 年間のご褒美旅」へと出かける彼女たち！ダンス経験がなく、苦しみもがきながらも一年目を終えた工藤さん、ムードメーカーの讃岐さん、チームトップの人気を誇る滝谷さん…。そんな彼女たちがロケ中にみせるあどけない表情と、ファイターズガールとしての熱い思い。華々しい活躍の裏側にあるものとは一体!?

<委員長総括>

■そもそもチアガールは、試合そのものには直接関係しないが、エンターテインメント的な要素を持ち、会場や放送を通して華やかさを付け加え盛り上げる役割を担い、スポーツビジネスには欠かせない立ち位置にある。今回は、“きつねダンス”で注目を集めたファイターズガールの存在や、その取り組みをクローズアップしたことを評価する。この番組には、ドキュメンタリー的な面とバラエティ的な面の両方があり、それをどうみせるのか、そのバランスが非常に難しく、そこに制作者として工夫のしどころがあったと考える。見た方にはそこが上手く伝わらず、総じて表面的な印象が残り消化不良に終わったようだ。

皆さんの評価や意見を踏まえて、是非、次の番組に進化させていってください。

<審議意見>委員の主な意見は次の通り。

■最初に「ファイターズガールとは？」のくだりが欲しかった。なぜ彼女たちはファイターズガールになりたかったのか？その選考の基準は？日々どのような練習を行っているのか？子供たちは彼女たちの何に憧れているのか？見えないことが多くモヤモヤ感が残った。

構成では全体を通して短いカットで場面が移り変わることで、その魅力が伝わり切らなかった。彼女たちの苦悩している姿や、努力している場面が描かれていなかったため、その後の感動に繋がらず、番組としての厚みを感じられなかった。

■CS らしいコアなファンを取り込むいい企画である。ファン向けの番組として、グラウンド上の姿だけでなく、その周辺を伝えるのは大切。ご褒美旅は少し長く感じたが、ニッチなアイドルのファンには嬉しいはず。地上波にはない CS 放送の面目躍如であろう。彼女たちが注目されるようになった“きつねダンス”についての説明があればなおよかった。

■ファイターズガールの劇的な環境の変化と普段の様子を知ることができた楽しい番組であった。その自然な様子を撮るために楽屋内のカメラをメンバーの一人に託したアイデアはよかった。一方で画面上に表示された番組名は字体が細く色使いも含めて読みづらく見にくかった。また、構成面では、「ご褒美旅」と「ファイターズガールの仕事」の場面が行ったり来たりするので、番組の展開についていくのが大変であった。仕事の大変さや苦労話など、今年一年頑張った姿をもう少し厚めにすれば、より感情移入できたように思う。

■タイトルにある「～きつねダンス大流行の裏側～」を期待して視聴したが、番組内容はそうではなかった。タレントではなく、本業を持ちながらも一生懸命取り組んでいる彼女たちの、プライドや頑張りにもっと焦点を当てた方がよかったように思う。ファイターズガールの本質を見たかった。また、“きつねダンス”を取り入れた経緯についても説明が欲しかった。彼女たちの明るさや前向きな姿勢は伝わってきたが、なぜご褒美旅なのか、旅番組なのかバラエティなのか中途半端に感じた。

■ファンなら知っているのでもっと理解できるのかもしれないが、この人たちは一体誰なのかが始めにないので、番組が進行していても彼女たちの話が入ってこなかった。彼女たちが苦労して一年頑張ってきたことが映像としてあれば、もっと理解が深まったと思う。

チアガールはプロフェッショナルではなくアマチュアであれば、別のアプローチ方法があったのであろう。今回は、視聴者に“達成の物語”として感動や満足を求める「Doing」ではなく、「Being」のコンセプトで制作した方が面白かったのかもしれない。

■シビアな部分がクローズアップされてこそ感動に繋がるドキュメントバラエティとして視聴したが、総じて緩く中途半端であった。果たしてご褒美旅が必要であったのか。誰か一人をクローズアップする構成であればもう少し締まった番組になったように思う。

ただ、深みがあり噛み応えのある番組ではなく、ニッチなファン、コアなファン向けに敢えて訴求する番組コンセプトであれば、いい意味でのファミリービデオ的なテイストの番組として、それはそれでありなのかもしれないが。

[審議委員]

種子田穰委員長、影山貴彦副委員長、黒田勇委員、藤井純一委員、沢松奈生子委員、森本志磨子委員、樋口徹委員（以上7名）

GAORA では、これらの貴重なご意見を、これからもより良い番組をお届けしていくために大いに活用させていただきます。

以上